

《編集後記》

“Métier” Vol.8 の編集を終え、無事に発行ができ、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。

今回の編集に当たっては、従来の紀要の伝統を踏まえながらも、県立中央高等学校の教育活動を振り返り、実績や成果を冊子に残すことで、次年度に向けた課題を明らかにすることができると思いました。また、今後の教育活動の在り方について、新たな提言をすることで、本校の発展の一助となるとも考えました。こうした趣旨のもとで、多くの教職員に寄稿を依頼し、執筆いただき、発刊に至ることができました。

具体的な内容は巻頭の目次のとおりですが、校務分掌の主任・部長や教職経験の豊富な教職員の執筆だけでなく、中堅や若手といわれる教職員にも執筆を依頼しました。教職経験の年数の違いがある中で、本校の教育活動の振り返りや評価を、様々な視点で捉えることができたと考えております。

諸般の事情により、平成29年度は、発刊することができませんでした。しかし、今年度、深谷浩一校長が、教員・教頭としての勤務に続き、本校での3度目の勤務をすることになりました。改めて、平成22年度に創刊された“Métier” Vol.1 の編纂の思いを継承することができたと考えております。

教育の現場において、「不易と流行」という言葉が使われています。

どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値のあるもの」（不易）があります。例えば、豊かな人間性、正義感や公正さを重んじる心、人権を尊重する心、自然を愛する心など、生徒に培うことは、いつの教育においても大切であるといえます。

しかし、急激に変化していつている社会において、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」（流行）に、柔軟に対応していくことも、教育に課せられた課題であるといえます。例えば、今後も一層進展すると予測される国際化や情報化などの社会の変化に、教育が的確かつ迅速に対応していくことが、極めて重要であるといえます。

このように、教育における「不易」と「流行」を十分に見極めつつ、生徒たちの教育を進めていく必要があると考えます。生徒たちが、将来、自己実現を図りながら、これからの社会を生きていくために必要な資質や能力を身に付けていくことを踏まえ、教育活動の振り返りと今後の展望を明確にした教育の実践が重要だと考えます。

これらのことを踏まえ、“Métier” Vol.8 が、今後、本校の教育活動における方向性を示す指針となることを、祈念いたしております。

最後に、“Métier” Vol.8 の執筆を担当いただきました教職員各位に対しまして、日ごろの研鑽に改めて敬意を表しますとともに、読者・関係者の皆様から、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（編集担当：教頭 広戸 純）